

夕刊 常磐炭田に於ける炭鑛聚落の研究 山口 彌一郎

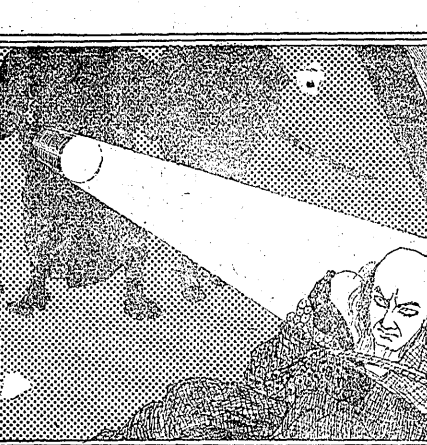
常磐炭田に於ける炭鑛聚落の研究

山口 彌一郎

明治十六年の小野田炭鑛の開發はやがて明治四十一年の長倉坑となり、入山第四坑は湯本斷層を東に超えて第三坑に移り、白川川奥の明治廿八年開坑した舊入山坑に續いて三星級坑が大正五年に明治廿一年町田啓坑の開坑に次いで高坂坑が大正六年住吉坑が大正十二年に開坑して、好間坑に於ても北好間が上野間に移動してゐるのがみられる...

拈華微笑 實例にしても餘りに超絶だ。火防組合長の火つけ、気がひびくにつけて来て消しに双物以上の危に行き、お釋迦様以上な平署の、いつ發れる事やら、厭な秋霖...

幕末神風組 (27) 土生太郎作 高根秀浩書 救ひの手 (一) 唯ひたりやあはれ 佐吉は目の廻る様な空腹を堪へて今日で四日、碌に物も喰はずに來たが染香の言葉に勇氣づけられた今夜は夢中でさざり寄つて行つていきたない口でその握り飯を喰ひ、喰つた...



幕末神風組 (27) 土生太郎作 高根秀浩書 救ひの手 (二) 唯ひたりやあはれ 佐吉は目を廻る様な空腹を堪へて今日で四日、碌に物も喰はずに來たが染香の言葉に勇氣づけられた今夜は夢中でさざり寄つて行つていきたない口でその握り飯を喰ひ、喰つた...

愚庵研究 (1)

島田 忠夫

愚庵の兄弟に就いての研究 天田愚庵和尚の詩に 有父不知生。有母不知死。兄弟十八人。只餘吾與子。嗚呼子與吾。兩地隔千里。會見一何疎。魚雁不可恃。今夕偶相逢。不辨悲與喜。願願縣縣町字大館の大寶寺。雙淚流難禁。忘為方外士。昔聞朱壽昌。寫經固有以。一火火災に遭つて、六況我既出家。功德向誰...

拈華微笑 實例にしても餘りに超絶だ。火防組合長の火つけ、気がひびくにつけて来て消しに双物以上の危に行き、お釋迦様以上な平署の、いつ發れる事やら、厭な秋霖...

幕末神風組 (27) 土生太郎作 高根秀浩書 救ひの手 (一) 唯ひたりやあはれ 佐吉は目の廻る様な空腹を堪へて今日で四日、碌に物も喰はずに來たが染香の言葉に勇氣づけられた今夜は夢中でさざり寄つて行つていきたない口でその握り飯を喰ひ、喰つた...

幕末神風組 (27) 土生太郎作 高根秀浩書 救ひの手 (二) 唯ひたりやあはれ 佐吉は目を廻る様な空腹を堪へて今日で四日、碌に物も喰はずに來たが染香の言葉に勇氣づけられた今夜は夢中でさざり寄つて行つていきたない口でその握り飯を喰ひ、喰つた...

拈華微笑 實例にしても餘りに超絶だ。火防組合長の火つけ、気がひびくにつけて来て消しに双物以上の危に行き、お釋迦様以上な平署の、いつ發れる事やら、厭な秋霖...

拈華微笑 實例にしても餘りに超絶だ。火防組合長の火つけ、気がひびくにつけて来て消しに双物以上の危に行き、お釋迦様以上な平署の、いつ發れる事やら、厭な秋霖...

拈華微笑 實例にしても餘りに超絶だ。火防組合長の火つけ、気がひびくにつけて来て消しに双物以上の危に行き、お釋迦様以上な平署の、いつ發れる事やら、厭な秋霖...

拈華微笑 實例にしても餘りに超絶だ。火防組合長の火つけ、気がひびくにつけて来て消しに双物以上の危に行き、お釋迦様以上な平署の、いつ發れる事やら、厭な秋霖...

恐ろしい疫癘の流行期!! 毎年六月始めより十月と申します。○死亡統計百人中六十五人以上として居ります。まづ豫防に經口免疫の北里研究所特造疫癘内服ワクチンを。○價格 幼児一人分 五十銭 大人一人分 五十銭 (文獻進呈) 特約店 西村屋藥局 平二、電三

赤井嶽藥師一ツ嶽山、桐ヶ岡山、神の御參詣。夏井川溪谷(東北の耶馬溪)の雪景。もみぢ。岩つゝ。深緑、四季折々の遠足。遊覽絶好の御土産。品質保險風味絶佳... 發賣元 平屋賣店 小川郷 平二、電三

最新式ラジオレキター 機械用 白榮舎ランドリ 平町藤田女學校前横 最高の品質 最低の價格... 富士宣傳號 五十八圓 オール號 四十圓 更生號實用車 二十五圓

フタバ式リヤカー 富士自轉車指定販賣所 平町南町、月見橋際 増田耳鼻喉科醫院 (入院隨意) 電話四八二番

貨切ノ御用命、イツテモ眞先ニ(松崎ニ) 三九ニタクシーへ (デンワ、ミクニ)

毛布 品良 店品野中 平二、電三

美味で評判のイワキサロン 平町電三五二 藤七は悪々と叫んだ 佐吉は心中で可笑しくして...

日本石油株式會社特約店 關影商店平支店 本店水戸線下館驛前 電話六二一

新案特許馬島式 ダツチベツサリ 唯一の産兒制限器具!!

阿部藥舖 販賣店 工業藥品有名賣藥 醫學藥品衛生材料 松月堂向

毛布 品良 店品野中 平二、電三

貨切ノ御用命、イツテモ眞先ニ(松崎ニ) 三九ニタクシーへ (デンワ、ミクニ)

